



きやっする まうんてん 2022年10月号 触れるケアについて

文責: 緩和ケア認定看護師 川畑博美

コロナ禍になり人と人の距離や「触れること」へ敏感になっている世の中ですが、様々な苦痛を抱えている患者さんへ関わる際に私が大事にしている「触れるケア」について紹介します。

「触れる」ことがケアになるための条件

1. お互いの関係性

もし看護師-患者がお互いに関心を持たず、信頼関係がなければタッチはうとましい行為になってしまう。

2. タッチのタイミング

誰でもいつでもタッチングを必要としているわけではない。何度もコールを押す患者さん、本当のニーズは”さびしい” “傍にいてほしい”なのでは…

触れるケア 快を得るケアのひとつ マッサージの効果

脳内モルヒネ

B-エンドルフィンの増加

忙しい現場の中ですが、短時間でも傍にいて相手のために時間を使うこと、快を得て苦痛の閾値を上げる関わりを模索しています。

気持ちいい～

触れられることの安心感

